

グローバリゼーションズー人類学、歴史学、地域研究の現場から

富沢 壽勇 共著（三尾 裕子・床呂 郁哉 編）



弘文堂

2012年12月15日発行

ISBN978-4-335-56118-4

価格 4830 円（税込）

冷戦終了後の世界で進行するグローバリゼーションをローカルな視点から相対化し、世界各地で歴史的に存在してきた欧米に依存しないグローバルな動きを分析。一元的なグローバリゼーション・モデルだけでは見落とされてしまう様々な人、モノ、情報のフローを含みこんだ新たなグローバリゼーション理解の枠組みを提示する。

〈目次〉

- 序論 なぜ「グローバリゼーションズ」なのか（三尾裕子・床呂郁哉）
- 第1章 スルー海域世界から見える複数のグローバリゼーションズ（床呂郁哉）
- 第2章 中国系移民におけるグローバリゼーション経験（三尾裕子）
- 第3章 パレスチナ人のグローバルな移動とナショナリズム（錦田愛子）
- 第4章 グローバリゼーションのなかのマレー・ディアスポラ運動（富沢寿勇）
- 第5章 露店はモールを夢見るか（岩谷彩子）
- 第6章 「アフリカ」の売り方（井上真悠子）
- 第7章 グローバリゼーションと移民を結ぶ文化的ロジック（木村自）
- 第8章 変わる移住先、変わらぬ構造（新井和広）
- 第9章 ポスト・グローバリゼーション期への人類学的射程（湖中真哉）
- 第10章 バナナとグローバリゼーション（小松かおり）
- 第11章 未来の二つの顔に（大村敬一）